

## B 役員の動向

次に、学術研究団体の役員(主として理事)について女性比率をみる。

役員についての回答は、年次の指定なく各団体に回答を求めた。(調査時平成 14 年)概ね平成 13～14 年度の資料と推定される。表7は、部ごとに女性役員数および比率の平均を示したものである。また女性会員比率も参考のために付した。

表 7 女性役員比率(部の平均)

	役員総数	女性役員数	役員中女性比率	女性会員比率 (平成 14 年度)
第 1 部 (文学・哲学・教育学・心理学・社会学・史学)	13043 人	1718 人	13.2 %	34.7%
第 2 部 (法律学・政治学)	1670 人	105 人	6.3 %	13.1%
第 3 部 (経済学・商学・経営学)	3632 人	205 人	5.6 %	10.7%
第 4 部 (理学)	3949 人	232 人	5.9 %	8.9%
第 5 部 (工学)	4357 人	51 人	1.2 %	3.3%
第 6 部 (農学)	4784 人	294 人	6.1 %	13.6%
第 7 部 (医学・歯学・薬学)	17417 人	1038 人	6.0 %	22.0%
全体	48852 人	3643 人	7.5 %	16.7%

女性役員比率は部による差があり、第 1 部が他の部より高く、そこでの女性会員比率の高さによると考えられる。しかし、それでも女性会員比率の高さの割には女性役員比率は決して高くはない。さらに女性会員比率が第 1 部に次いで 22%と高い第7部における女性役員比率は 6.0%と低く、この分野における女性の位置の低さを推定させる。

女性役員の動向を端的にみるために、全団体通じて女性役員比率の高いもの 20 団体を挙げたのが、表 8 である。

表 8 全体(1～7部)を通じて女性役員比率高い 20 団体

順位	部	団体名称	役員総数	女性役員数	役員中 女性比率	13年度 会員数	うち男性 会員数
1	第1部	(社)日本女子体育連盟	27	27	100.0	1268	0
2	第1部	日本女性学会	11	11	100.0	640	27
3	第1部	総合女性史研究会	10	10	100.0	254	21
4	第3部	日本看護管理学会	12	12	100.0	752	--
5	第4部	日本女性科学者の会	24	24	100.0	289	1
6	第7部	日本がん看護学会	12	12	100.0	2074	28
7	第7部	日本小児看護学会	9	9	100.0	829	--
8	第7部	日本糖尿病教育・看護学会	10	10	100.0	881	32
9	第7部	日本看護科学学会	15	15	100.0	3469	70
10	第7部	日本看護学教育学会	13	13	100.0	2486	--
11	第7部	千葉看護学会	9	9	100.0	564	--
12	第7部	聖路加看護学会	11	11	100.0	520	17
13	第7部	日本助産学会	14	14	100.0	1129	0
14	第7部	日本老年看護学会	25	25	100.0	504	15
15	第7部	(社)日本視能訓練士協会	22	21	95.5	3295	185
16	第7部	日本看護診断学会	17	16	94.1	1266	48
17	第7部	日本地域看護学会	16	15	93.8	742	35
18	第1部	日本家庭科教育学会	42	39	92.9	584	80
19	第1部	比較舞踊学会	12	11	91.7	170	31
20	第7部	日本看護研究学会	22	20	90.9	4202	--

このように役員の女性比率は団体によってちらばりが大きく、女性役員比率は当該団体の女性会員比率と関連しており、概して女性会員が多い団体では役員に女性がいる傾向がある。しかし例外も少なくなく、女性会員がかなりいるのに役員に女性は少なく代表者も男性という団体もある。このあたりをさらに検討してみよう。もっとも多くのデータがありかつ最新の平成13年度のデータによって、女性会員比率について次の3種の学術研究団体を選び出して検討した。すなわち

- 1; (女性会員が高い団体として) 女性会員比率が 65%以上の団体
- 2; 女性会員比率が 30%から 50%未満の団体
- 3; (女性会員比率が低い団体として) 女性会員比率が 10%以下の団体

これら女性会員比率の高さの異なる 3 種に該当する団体数およびそこにおける女性役員比率を 1～7 部通じて算出したのが表 9 である。

表9 女性会員比率の高さと女性役員比率との関係

—平成13年度の資料より女性会員比率の高低団体の比較—

会員女性比率	学術研究団体数	役員女性比率(平均)
65%以上	50団体	58.4 %
30%～50%未満	128団体	14.4 %
10%以下	485団体	2.5 %

女性会員率と女性役員比率は関係しており、女性会員の増加が女性役員率を高める方向に働くことがみてとれる。しかし先にも指摘した女性会員／役員に対応の様相を部ごとにみよう。1～7部別に女性会員比率の高さによる3種ごとの役員女性比率を示したのが、表10である。

表10 女性会員比率3種における1～7部別の女性役員比率平均

—平成13年度の資料より—

会員女性比率	部	学術研究団体数	役員女性比率	団体名
65%以上	第1部	30	54.0%	日本保育学会、異文化コミュニケーション学会、他
	第2部	0		
	第3部	0		
	第4部	0		
	第5部	0		
	第6部	6	60.4%	(社)日本家政学会、日本調理科学会、他
	第7部	14	61.8%	日本栄養改善学会、日本看護診断学会、他
30%～50%	第1部	93	15.4%	日本民族学会、(社)日本心理学会、他
	第2部	2	23.4%	比較家族史学会、日本カナダ学会
	第3部	0		
	第4部	2	21.6%	アト・トコミュニケーション学会、情報科学技術協会
	第5部	0		
	第6部	3	15.0%	日本農業普及学会、他
	第7部	26	6.8%	日本精神分析学会、日本小児心理医学会、他
10%以下	第1部	65	3.2%	日本哲学会、地方史研究協議会、他
	第2部	25	2.5%	日本政治学会、比較法学会、他
	第3部	75	4.0%	日本経済学会、経営情報学会、他
	第4部	75	4.2%	(社)日本天文学会、他
	第5部	80	1.3%	日本建築学会、日本原子力学会、他
	第6部	75	2.2%	日本農薬学会、(社)日本生物工学会、他
	第7部	90	1.4%	日本気管支学会、他

次に、会員女性比率 65%以上の団体、および 30%以下の団体を具体的に取り上げ、そこでの代表者の性別および女性役員比率をみたのが表 11-1 である。

表 11-1 会員女性比率 65%以上の団体 —役員女性比率高く、会員女性比率の高い順—

順位	部	団体名称	代表者 性別	役員中 女性比率	13年会員中 女性比率
1	第4部	日本女性科学者の会	女	100.0	99.7
1	第7部	日本がん看護学会	女	100.0	98.7
1	第7部	日本老年看護学会	女	100.0	97.0
1	第7部	聖路加看護学会	女	100.0	96.7
1	第7部	日本糖尿病教育・看護学会	女	100.0	96.4
1	第1部	日本女性学会	女	100.0	95.8
1	第1部	総合女性史研究会	女	100.0	91.7
2	第7部	(社) 日本視能訓練士協会	女	95.5	94.4
3	第7部	日本看護診断学会	女	94.1	96.2
4	第7部	日本地域看護学会	女	93.8	95.3
5	第1部	日本家庭科教育学会	女	92.9	85.6
6	第1部	比較舞踊学会	女	91.7	81.8
7	第1部	服飾美学会	女	90.5	89.4
8	第6部	国際服飾学会	女	88.6	93.5
9	第7部	日本家族看護学会	女	88.0	96.8
10	第6部	日本衣服学会	女	87.5	79.9
11	第1部	日本イギリス児童文学会	男	78.6	83.3
12	第1部	日本看護福祉学会	男	72.0	86.6
13	第1部	日本在宅ケア学会	女	71.4	69.9
14	第1部	日本コミュニケーション障害学会	女	71.0	82.4
15	第1部	日本語ジェンダー学会	女	66.7	75.8
15	第1部	異文化コミュニケーション学会	女	66.7	66.5
16	第6部	日本調理科学会	女	65.4	79.2
17	第1部	日本医療社会福祉学会	男	64.3	68.5
18	第1部	舞踊学会	男	60.9	77.8
18	第6部	(社) 日本家政学会	女	60.9	80.1

順位	部	団体名称	代表者 性別	役員中 女性比率	13年会員中 女性比率
19	第7部	日本栄養改善学会	男	57.2	90.5
20	第1部	日本モンテッソーリ協会	女	56.0	88.6
21	第1部	国際幼児教育学会	男	54.8	73.5
22	第1部	日本ヴァージニア・ウルフ協会	女	53.3	77.9
23	第1部	日本ダルクローズ音楽教育学会	男	50.0	86.4
24	第6部	日本農村生活学会	男	47.0	69.9
25	第1部	日本児童文学学会	男	44.4	68.8
25	第1部	日本ロールシャッハ学会	女	44.4	68.0
26	第7部	日本病態栄養学会	男	43.8	74.8
27	第1部	日本乳幼児教育学会	女	42.3	65.9
28	第1部	日本保育学会	男	41.9	72.5
29	第1部	(社) 日本語教育学会	女	40.9	73.4
30	第1部	日本家族社会学会	男	40.0	66.7
31	第1部	(財) 日本ピアノ教育連盟	男	37.2	89.1
32	第7部	(社) 日本作業療法士協会	女	34.8	72.6
33	第1部	異文化間教育学会	男	30.0	72.1
34	第1部	日本声楽発声学会	男	26.3	67.1
35	第1部	日本学校音楽教育実践学会	男	25.0	70.2
36	第7部	日本保育園保健協議会	男	24.0	66.4
37	第1部	日本電話相談学会	男	23.8	74.3
38	第6部	ファッションビジネス学会	男	16.0	78.0
39	第1部	安田女子大学児童教育学会	男	15.8	90.6
40	第7部	日本母性衛生学会	男	11.6	81.8
41	第1部	日本音楽療法学会	男	4.5	91.1

女性会員比率が80%ぐらいまでの団体では、代表者は女性で役員女性比率も会員女性比率にほぼ対応する高さである。しかし女性会員比率が70%あたりを境に、役員での女性比率は低下して会員女性比率をはるかに下回るようになり、かつ代表者も男性となる傾向がみられる。

では、女性会員比率の低い(30%以下)における女性役員はどのようであろうか。表11-2は、女性役員比率が20~30%(131団体)で、役員中女性は0%である団体を挙げたものである。

表 11-2 会員女性比率が 20～30%いるのに、役員女性比率が0%の 25 団体

部	団体名称	代表者性別	役員女性比率	13 年会員中女性比率
第 7 部	(社) 日本小児科学会	男	0.0	30.9
第 7 部	日本心療内科学会	男	0.0	30.5
第 7 部	(社) 日本超音波医学会	男	0.0	27.9
第 7 部	日本臨床麻酔学会	男	0.0	27.7
第 7 部	日本循環制御医学会	男	0.0	27.5
第 1 部	(社) 日本心身医学会	男	0.0	27.5
第 1 部	日本中東学会	男	0.0	27.4
第 1 部	中国四国教育学会	男	0.0	26.8
第 7 部	日本糖尿病眼学会	男	0.0	26.3
第 1 部	中央史学会	男	0.0	25.4
第 1 部	萬葉学会	男	0.0	25.1
第 1 部	日本生理心理学会	男	0.0	25.0
第 7 部	日本臨床化学会	男	0.0	25.0
第 7 部	日本呼吸療法医学会	男	0.0	24.4
第 7 部	日本受精着床学会	男	0.0	23.0
第 1 部	日本教育方法学会	男	0.0	23.0
第 7 部	日本基礎老化学会	男	0.0	22.9
第 7 部	日本肥満学会	男	0.0	22.8
第 1 部	日本英語教育史学会	男	0.0	22.1
第 6 部	日本食品化学学会	男	0.0	21.8
第 7 部	日本小児腎臓病学会	男	0.0	21.8
第 7 部	(社) 日本食品衛生学会	男	0.0	21.8
第 7 部	新潟歯学会	男	0.0	21.4
第 6 部	日本小動物獣医学会	男	0.0	21.0
第 7 部	(社) 日本薬学会	男	0.0	20.3

女性会員が 20%～30%台ということは決して無視できるほどの数ではないが、この程度の比率では女性役員は出ないのが趨勢のようだ。ここには 7 部つまり医学領域が圧倒的に多く、ついで 1 部の教育領域が多い。これらの領域における女性の進出が少なさは何を意味するのか、検討すべきであろう。